



令和7年度「全国体力・運動能力調査」結果についてのお知らせ

1 はじめに

全国体力・運動能力調査は、中学校2年生が対象で限られた学年のみの調査です。また、調査種目は8種目ありますが、個人のもっている体力のすべてを調査できるものではありません。従って、これらの調査によって測定できるのは、「体力の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、下記の結果をご覧ください。

2 調査結果(全国平均との比較)

第一中 2年生 <男子>

握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅跳び	ボール投げ	合計点
◎	◎	○	▲	○	○	△	◎	○

◎:上回っている ○:やや上回っている -:ほぼ同じ △:やや下回っている ▲:下回っている

第一中 2年生 <女子>

握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅跳び	ボール投げ	合計点
◎	▲	○	△	○	○	△	—	—

◎:上回っている ○:やや上回っている -:ほぼ同じ △:やや下回っている ▲:下回っている

<調査結果からの考察>

- 総合得点で男子は全国平均を上回っている。女子は全国平均とほぼ同じ水準である。
- 男子は「握力」「上体起こし」「ボール投げ」の数値が高い。逆に、「反復横跳び」と「立ち幅跳び」の力が弱い。このことから、敏捷性、跳躍力を鍛えていく必要がある。
- 女子は「握力」と「長座体前屈」の数値が高い。逆に、「上体起こし」と「反復横跳び」の数値が低い。このことから体幹を鍛え、上体の筋力や敏捷性を高めていく必要がある。
- ◎総合評価(5段階)を見ると、男子は体力的に高いことを示す「5」と「4」で4割強、平均的な体力を示す「3」に該当する生徒が3割強となっており、平均以上の体力をもっている生徒が多くいることがわかる。
- ◎女子も、「5」が2割「4」が4割を占めており、高い体力をもっている生徒が多いことがわかる。

3 運動・体力に関する質問紙調査結果と今後の課題

- 運動に関する質問紙調査中の項目の中で、「運動が好きか」の問いに対して、男子は「好き」「やや好き」と回答している生徒が8割強という結果から運動好きな生徒が多いことがわかる。女子は、「好き」「やや好き」と回答する生徒が6割に対して、「嫌い」「やや嫌い」の生徒も3割いる状況から、二極化が表れている現状である。同様に、男子は、中学卒業後も自主的に運動に取り組む」と答えた生徒は8割を超えているのに対し、女子は積極的に運動に関わっていくとしようとする生徒が少ない。今後は、運動に積極的に取り組む生徒の育成を課題にして取り組んでいきたい
- 中学校学習指導要領において、「運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ること。その際、共生の視点を重視して改善を図ること。」とあり、生涯にわたって運動に親しむ資質を養うことを大切にしていこうとする観点から、保健体育の授業を男女共修で実施するようになっています。生涯体育や共生社会の実現に向けて、工夫した取り組みをしていきたい。
- 学校生活での運動場面は、保健体育の授業の他、部活動、昼休みの自主的な活動となります。保健体育の授業では、活動内容を工夫し、運動量確保に努めていきます。部活動については、岐阜県部活動ガイドラインに沿いながら、活動時間を少しでも増やし、昼休みの過ごし方なども工夫しながら体力向上の取組に努めていきます。